

●6年制学科のカリキュラムの特色

本学部のカリキュラムには、全人的視野を養うための共通教育科目と、薬学の基礎を学ぶ基礎薬学および医療の実践を学ぶ医療薬学の二つからなる専門教育科目とがあります。まず1年次では共通教育科目を通して幅広い知識を身につけるとともに、基礎薬学科目の中でも基礎中の基礎である「物理」「化学」「生物」をしっかり学びます。2、3年次では、基礎薬学、医療薬学の2つの専門科目に加えて、多くの実験実習科目を展開し、理論と実践を結ぶ高度な薬学スキルを修得します。4年次では医療現場での実務実習に向けて、臨床薬学系の医療薬学科目の知識、技能、態度を修得します。5年次では病院・薬局での実務実習を通して臨床に係わる実践的な能力を養い、高度で幅広い知識と技能を有する薬剤師を目指します。また、4年次2月から専門研究室に配属し卒業研究に取り組みます。6年次では卒業研究をまとめるとともに発表会を行い、これまでの学びの集大成として総合薬学演習を行います。

薬学コアカリキュラムののった薬学専門教育の充実が勿論ですが、加えて臨床関連分野の教育を重視しているのが本学部の特徴です。「分かるまで教える、出来るまで行う」をモットーに、不得手な科目が生じれば特別の時間を設けて一人ひとりをしっかりサポートする教育を行っています。

●病院や薬局の実務実習 特色や取り組み

医療技術の高度化、医薬分業の進展等に伴い、医療の担い手として質の高い薬剤師が求められています。この社会的要請に応えるためには、教養教育、医療薬学をはじめとする専門教育に加えて、実際の臨床の現場における実務実習の充実が図られており、それらを有機的に組み合わせることにより、医療人として相応しい質の高い薬剤師の養成を図る必要があります。即ち、知識教育はもちろんですが、それに偏ることなく、技能や態度の習得も重要になります。この目的を達成するために、病院、薬局それぞれ11週間の長期実務実習が重要な役割を果たすこととなります。本学では、この実務実習をより有意義なものにするために、十分な時間をかけて事前学習を行っています。加えて、実務実習前には、直前オリエンテーションおよび実務実習指導薬剤師との事前面談を、実務実習中には学内研修会を、そして実務実習終了後には実務実習で得られた成果の報告会(2019～2022年度の報告会はCOVID-19対策のため中止)を開催して、効果的で有意義な実習となるよう工夫しています。また、広島県外出身者に対しては、ふるさとでの実習も支援

しており、2023年度は鳥取、島根、山口、福岡、大分、熊本、鹿児島、沖縄の各都県で実務実習を行う予定にしています。

●病院実習先・薬局実習先

土谷総合病院、マツダ病院、県立広島病院、JA広島総合病院、広島市民病院、安佐市民病院、舟入市民病院、広島赤十字・原爆病院、広島大学病院、JR広島病院、国立病院機構各医療センター 他 39カ所

安佐薬剤師会所属の各保険薬局を中心に、他に広島市内のエスマイル薬局グループ、コスモス薬局グループ、ファーマシー薬局グループ、オール薬局グループ、すずらん薬局グループ、ライフアートグループ薬局各店等 77カ所

●薬剤師国家試験への取り組み

薬学共用試験および国家試験に関しては、各対策委員会を設置して取り組んでいます。業者の全国模擬試験を数回行い、受験後は教員がそれをフォローアップすることとし、効果的な教育が施せるように努めております。補習も教員と様々なコンテンツの適切な組み合わせを作り、学習効果を高めております。加えて個別指導やグループ指導を取り入れ、弱点の克服を図ります。5、6年次には授業科目「総合薬学演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」においては薬学部を卒業し国家試験を受けるにふさわしい総合的学力を高める内容の講義や演習を実施しています。

●卒業研究について

6年制 学生は4年次の2月に各分野の研究室に配属し、4年次まで学修した専門知識をもとにして、より専門性を深めるために卒業研究に取り組みます。研究を通して調査・実験で得た結果を考察する知識・技能・態度を身につけ、問題発見力・解決力を養います。さらには薬学に関連した学術誌が読解できる知識を修得するとともに、医療現場や実験研究で必要とされる英語力も身につけます。研究成果は、公開で実施される卒業研究発表会で発表し、卒業研究論文としてまとめます。

●入試の変更点

・自己表現型選抜において、面接時間を6分とする。また、面接は出願書類に基づいた質疑応答とし、加えて薬学科のアドミッション・ポリシーをふまえた「自由表現」を3分程度行うことが可能(資料等の持込み可。ただし、自身で準備すること)。
・総合型選抜(専願)、総合型選抜(併願)ともに

前期日程および後期日程を設ける。前期日程は11月に、後期日程は12月に実施する。なお、総合型選抜(専願)と総合型選抜(併願)を同時に受験することはできない。また、基礎学力調査では、「理科」を必須とし、「英語」「国語」「数学」から1科目を選択(計2科目)とする。

●過去問を公開しておられますか

公開していない

●大学独自の奨学金制度

■薬学部特待生制度(薬学特待生)

https://www.yasuda-u.ac.jp/admission/ad_pharmacy/

<対象入試>

大学入学共通テスト利用選抜(薬学部薬学科特待生選抜)

<対象者>

原則、令和6年度大学入学共通テストにおいて、本学が指定する4教科6科目の合計得点率が75%以上の者から、成績上位20名までを特待生として認定する。

<内容>

- ・入学後6年間における授業料を全額免除とする。(入学料、施設設備費、諸費等は別途必要。)
- ・入学後、学生の身分および学則を守り、成績が本学の定める基準(上位50%以内)を満たす必要がある。
- ・成績基準の確認は、1年次から5年次まで、毎年度末の成績確定後に行う。基準を満たさない場合は、次年度から薬学部奨学生(薬学パスポート)となる。

■薬学部奨学金制度(薬学パスポート)

https://www.yasuda-u.ac.jp/admission/ad_pharmacy/

<対象入試>

・一般選抜前期日程(A日程・B日程・C日程)

・大学入学共通テスト利用選抜(前期日程)

<対象者>

- ・一般選抜前期日程(A日程・B日程・C日程)の成績上位60名
- ・大学入学共通テスト利用選抜(前期日程)の成績上位40名

<内容>

- ・入学後6年間における授業料を、自宅から通学する場合は年間80万円、自宅外から通学する場合は年間50万円とする。(入学料、施設設備費、諸費等は別途必要。)
- ・入学後、学生の身分および学則を守り、成績が本学の定める基準(上位50%以内)を満たす必要がある。
- ・成績基準の確認は、2年次から5年次まで、毎